

令和6年度 第3回 県立広島大学宮島学センター公開講座

宮島を愛した人々

—中世考古学、中国文学、日本文学の視点から—

この講座は、鈴木康之教授（中世考古学）、柳川順子教授（中国文学）、西本寮子教授（日本文学）がそれぞれの専門分野の視点から、宮島をめぐる人やモノの交流をテーマに講座を実施します。※連続講座ではなく、1回（1日）の講座です。

■ 日 時：令和7年2月12日（水）13:30～16:00（受付開始 13:00）

※第1、2回と開始時間が違います。確認してご参加ください。

■ 会 場：etto 宮島交流館
（宮島まちづくり交流センター、廿日市市宮島町 412）

■ 講 師：県立広島大学教授 鈴木 康之、西本 寮子、柳川 順子

■ 受講料：無料

■ 募集人数：50人

■ 申込方法：

往復はがきの往信裏面に①名前、②ふりがな、③郵便番号、④住所、⑤電話番号を、返信表面に受講される方の名前と住所をご記入の上、下の申込先に郵送してください。往復はがき1枚につきお一人のお申込でお願いします。申込者多数の場合は抽選とします。あらかじめご了承ください。申込締切日以降に返信はがきで受講の可否をお知らせします。

※令和6年10月1日に郵便料金が改正され、往復はがき1枚あたり170円になりました。旧料金の往復はがきが使われる場合は往信面・返信面にそれぞれ追加料金分の切手をお貼りください。

■ 申込締切：令和7年1月28日（火）必着

■ 申込・問合せ先：〒734-8558 広島市南区宇品東一丁目1-71
県立広島大学宮島学センター 公開講座③係
TEL082-251-9534（地域連携センター内）

■主催：県立広島大学 宮島学センター/廿日市市教育委員会

講座概要

鈴木 康之 教授（中世考古学）

宮島の門前町は、巖島神社の北東の海岸線沿いに広がる「東町」と、神社の南西に位置する谷に広がる「西町」という二つの部分から構成されています。また、その成立過程や性格も異なっており、東町は港湾都市、西町は宗教都市としての性格をもっています。近年、日本列島の各地では中世の港湾都市遺跡、宗教都市遺跡の発掘調査が進められており、そうした調査・研究の成果から、宮島の門前町の特質を考えてみます。

柳川 順子 教授（中国文学）

今も広く知られている「巖島八景」は、どのような経緯で、誰が選定したのでしょうか。宮島の光明院の恕信がその発起人であることは確かですが、実際の選定者は、京都から宮島を訪れて光明院に投宿した、石清水八幡宮の柏村直條です。このことを、柏村によって編まれた「八幡八景」、更には奈良の「南京八景」に補助線を引くことによって明らかにします。

西本 寮子 教授（日本文学）

江戸時代になると、宮島には各地から多くの人びとが訪れ、賑わいを見せるようになりました。来島者は行く先々で目にしたことや思いを、時に歌に詠み、文に綴り、言葉にして残しました。宮島にゆかりのある文人たちが残した和歌や紀行文など、芸備地域に伝わったいくつかの資料を手がかりとして、神の島を仰ぎ見、繁栄を支えた人びとの巖島に寄せる思いを探ってみます。